

# 四国防災・危機管理特別プログラム 社会人受講生の成果発表 資料



松浦 博司  
青木 正繁  
白山 京子  
錦野 順子



## 2. 本研究の概要

- ① 四国にある防災風土資源について調査
- ② 個別整理表を作成し、情報をとりまとめ 分類一覧表を作成し、データの整理
- ③ 得られた教訓の分析
- ④ 今後の災害対応に活かせる方策の検討

## 1. 研究の目的

四国には、災害の様子や対応を伝える石碑などの防災風土資源が多くある。これらの中には、**今日の防災・減災の方策を知る上で極めて重要な知恵や教訓が多く含まれている。**

四国の防災風土資源を用いて、「**地域を知る**」という防災の視点から、過去の災害情報を整理し、知恵や教訓をとりまとめて分析し、**家庭、地域、行政が今後の災害への対応に活かせる方策を検討し、地域での防災力向上に活かす**ことを目的とした。



調査対象とした四国の防災風土資源の位置



公共広告機構 (AC JAPAN) の広告 (四国新聞より)

## 3. 調査の概要

### ① 調査対象

四国防災共同教育センターのホームページに公開されている「四国の代表的防災風土資源の紹介／現地探訪用」の防災風土資源の情報

### ② 現地確認調査

上記情報のGoogle地図により、主な箇所の現地を探訪し、現地に残る遺跡等の情報などを確認 (各県4箇所)



備前島の鶴(くぐい)和光 神社の「石碑」(徳島11)



津波避難場所だった命山 (いのちやま) (高松11)



義民から生まれた 赤坂泉(愛媛1)



大高談(けいこう) (香取2)

**調査対象とした公表されている四国防災風土資源の位置**



**凡 例**  
 ● 水害・治水に関する防災風土資源  
 ● 地震・津波に関する防災風土資源  
 ● 土砂災害に関する防災風土資源  
 ● 渇水・利水に関する防災風土資源

**4. 得られた教訓の分析**

**①分類一覧表**

4つの災害種別に分類した四国防災風土資源から得られた教訓について、**災害対策フェーズ、防災主体、対策方法**の3つの視点で分類し、整理。  
 教訓の分類に当たっては、筆者ら複数名で、できるだけ客観性を確保できるように協議し行った。

No.	災害資源の種類	防風風土資源の名称	年 代			得られた教訓	得られた教訓の分類												
			江戸時代以前	明治時代	昭和時代		平成時代	令和時代	自助	共助	公助	ハード・ソフトの分類							
徳水28	水害・治水	徳島県 徳島市 徳島川 (赤松川) 治水 (竹)		1															1
徳水30	水害・治水	徳島県 徳島市 徳島川 治水 備えた家			1														1

**③個別整理表**

調査対象とした公表されている四国防災風土資源の情報を基に、整理番号、災害種別、場所、見所・アクセス、写真・図、解説、得られる教訓、教訓分類、時代について207全てを整理し、「防災風土資源個別整理表」を作成(A4版238頁)。その中で教訓を次に示す視点により分類。

- ・対策フェーズ
- ・防災主体別
- ・対策方法別

整理番号	災害種別	見所・アクセス	写真・図	解説	得られる教訓	教訓分類	時代
徳水28	水害・治水	徳島県 徳島市 徳島川 (赤松川) 治水 (竹)	写真1, 写真2, 写真3, 写真4, 写真5, 写真6, 写真7, 写真8, 写真9, 写真10	徳島川は、徳島市の南を流れる。治水には、竹が重要な役割を果たしている。...	治水の歴史、地域の特色	自助	江戸時代
徳水30	水害・治水	徳島県 徳島市 徳島川 治水 備えた家	写真11, 写真12, 写真13, 写真14, 写真15, 写真16, 写真17, 写真18, 写真19, 写真20	徳島川は、徳島市の南を流れる。治水には、竹が重要な役割を果たしている。...	治水の歴史、地域の特色	自助	江戸時代

**②災害種別の分析**

(1)水害・治水

徳島県が38(52%)であり、圧倒的に多く、四国三郎の別名を持つ吉野川が暴れ川であったことがわかる。

(2)地震・津波

高知県が56(61%)で最多。2番目の徳島県は26(28%)。太平洋に面する地域における津波や地震が圧倒的に多い。

(3)土砂災害

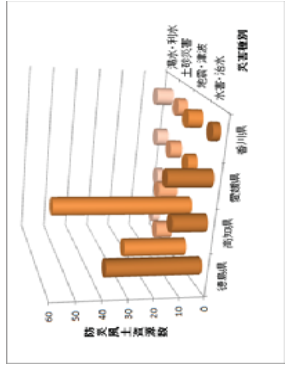
高知県が8(33%)。徳島県7(29%)。愛媛県5(20%)。香川県4(16%)であり、降水量が多い順番になっている。

(4)渇水・利水

香川県が7(39%)で最多。降水量が少ない地域ほど多い。

四国の防災風土資源数

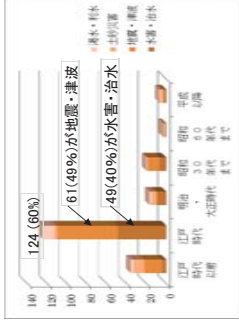
	徳島県	高知県	愛媛県	香川県	合計
水害・治水	38	14	18	3	73
地震・津波	26	56	4	6	92
土砂災害	7	8	5	4	24
渇水・利水	3	3	5	7	18
合計	74	81	32	20	207



各県の防災風土資源

### ③時代の分析

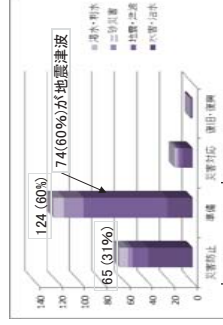
江戸時代の教訓が圧倒的に多く、全体の60%。うち49%が地震・津波。40%が水害・治水。これは、宝永地震や安政南海地震の発生や河川の氾濫被害が多かったためと推定される。



時代による分類 (4県)

### ④対策フェーズの分析

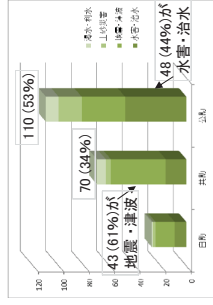
準備(備災)に関する教訓が圧倒的に多く全体207のうち124(60%)。うち74(60%)が地震・津波。また、準備と災害防止を合わせた「備災」の教訓は全体の189(91%)と多い。これは、事前の備え、減災方法等の伝承が多いためと推定される。



対策フェーズによる分類 (4県)

### ⑤防災主体の分析

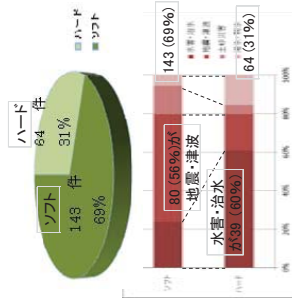
公助の教訓が最も多く、全体の110(53%)。うち48(44%)が水害・治水。これは、ハード整備には多大な費用等が必要であるためと推測。また、共助70(34%)のうち、43(61%)が地震・津波。石碑等が多く残っており、共助に対する教訓も多い。



防災主体による分類 (4県)

### ⑥対策方法の分析

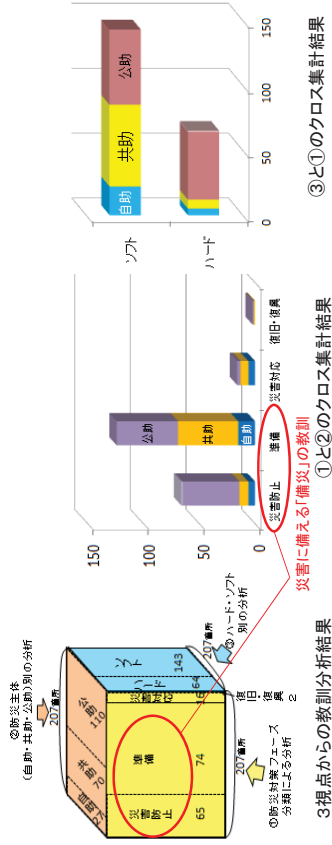
ソフトに関するものが圧倒的に多く、全体の143(69%)。うち80(56%)が地震・津波。江戸時代におけるハード対策には限界あり。ハードにおいては、全体64のうち、39(60%)が水害・治水。洪水・治水対策に対する遺構等が多く残っており、そのハードに対する教訓が多い。



対策方法による分類 (4県)

### ⑦分析結果のまとめ

- \* 全体として防災風土資源の教訓は、準備と災害防止を合わせた「災害に備える(備災)」に対する教訓が多い。
- \* 備災の教訓は、公助が多く、また、災害時の対応は、共助と自助が多い。
- \* 防災対策のハードの教訓は、公助が多く、ソフトの教訓は、共助と公助が多く、自助も少なくない。



①と②のクロス集計結果

③視点からの教訓分析結果

③と①のクロス集計結果

## 分析結果

四国の防災風土資源の教訓の抽出、整理 (個別整理表や教訓分類表)、分析を通じて得られた教訓

- 主に準備と災害防止に関するソフト面の自助、共助及び公助に関する知恵やノウハウを多く学ぶことができていくことがわかった。
- 災害防止のハード面の知恵やノウハウを学ぶことができていくことがわかった。
- 災害対応場面、全てに適用できる教訓があることもわかった。
- 四国で伝承されてきた防災風土資源から得られた教訓を活用して、その中に含まれている知恵やノウハウを地域の防災力向上のために役立てていくことが重要である。

## 5. 家庭、地域、行政の災害対応に活かせる方策

区分	方策内容
① 家庭の災害対応に活かせる方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災風土資源個別表の自助、共助の教訓を活かす</li> <li>(2) 家庭で実践できるハード、ソフト対策を知る</li> <li>(3) 誰でもできる防災技術を習得</li> </ul>
② 地域の災害対応に活かせる方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 災害教訓を伝える石碑等の継承</li> <li>(2) 「地域を知る」という防災の推進</li> <li>(3) 共助の教訓を活かした地域の存続</li> </ul>
③ 行政の災害対応に活かせる方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 不断の防災社会資本（ハード）整備</li> <li>(2) 地域対立を生む対策の交渉の好例（教訓）を活かす</li> <li>(3) 災害対策フェーズ毎の教訓による防災対応</li> </ul>

ご清聴ありがとうございました。

第4回防災・危機管理人材養成シンポジウム  
四国防災・危機管理特別プログラム第2期生終了記念  
社会人受講生 成果発表

『医療機関と福祉施設併用型のBCPを策定する』  
～医療機関・福祉施設のマンパワー連携体制を考える～



発表者：徳島大学  
四国防災・危機管理特別プログラム  
行政・企業防災・危機管理マネージャー養成コース  
青木正繁



四国の右下  
徳島県阿南市  
人口7万5千人  
LED発祥の地



企業概要

種類	内容
社名	医療法人 新心会
所在地(本社)	徳島県阿南市新野町信里6-1
業種	医療・介護
事業内容	有床診療所(外来19床)・介護老人保健施設(60床)併設型 在宅サービス(通所リハ26名)(訪問看護士7人/24H対応)
従業員数	50名
創業	1980年
拠点	徳島県阿南市新野町

※ 徳島県内 診療所併設型 老健 8/52(自施設含む)  
全国 502/3586 14%構成比

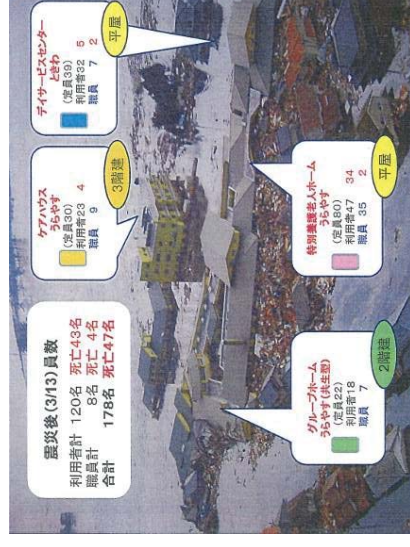
関連：社会福祉法人 心和社会  
※阿南市指定 福祉避難所



種類	内容
社名	社会福祉法人 心和社会
所在地	徳島県阿南市新野町信里65
事業内容	ケアハウス・・・40床 通所介護・・・35名 訪問介護ステーション 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター(阿南南部高齢者お世話センター)

介護保険法 2006年4月 運営基準改正時  
『非常災害時の対策』→非常災害に際して必要な具体的計画の策定  
関係機関への通報及び連携体制の整備』  
※各施設等 = 消防訓練・マニュアルの整備で対応!!

事例：2011年3月11日 形だけの備えがいかにもろいかを思いしらされた!  
東日本大震災の津波により全壊



宮城県名取市閉上 沿岸から1km立地。47名(職員・利用者)が犠牲になる甚大な被害。

# 企業立地環境(大規模災害時)



# 医療法人 新心会 現状 ~SWOT分析~

<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の利用者、入院・入所者は増加傾向である。</li> <li>消防法による消防訓練(風間・夜間指定) 年2回</li> <li>消防法による消防設備点検 年2回(外部業者)</li> <li>感染症対策に関する研修会 年2回</li> <li>医療安全対策に関する研修会 年2回 等</li> <li>(医療機関・福祉施設運営基準上の法令研修あり)</li> <li>介護報酬改定(3年に1回)</li> <li>診療報酬改定(2年に1回)</li> <li>各種加算項目等に変動あり。</li> </ul>	<p><b>機会</b> Opportunity</p> <p><b>強み</b> Strength</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災に関する研修会参加が多数あり。</li> <li>海抜29.6mあり津波は立地的にない。</li> <li>隣接に同じグループのケアハウス、在宅系サービス事業所があり、協力し合える。(阿南市指定福祉避難所)</li> <li>備蓄米等、近所の協力が得られる。(米、水、畑野菜)</li> <li>お祭り用のBBQセットが常時ある。(100名対応)</li> <li>地域へ開かれた施設。(お祭り、行事で交流あり)</li> <li>防災士、防火管理者研修修了者、地元消防団員も職員に数名配置している。</li> <li>集団給食施設がある為、災害時給食提供が早く出来る。(備蓄・炊き出しなど)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的マンパワー不足 (有資格者の専門職種)</li> <li>医療機関 防災安全対策の強化</li> <li>消防機関との通報装置は自動火災報知設備との連携が義務付け。</li> <li>防災設備検査を3年に1回行う。</li> <li>(消防法及び職業基準法の一部改正)</li> <li>防災対策に関するコストの増大</li> </ul>	<p><b>脅威</b> Threat</p> <p><b>弱み</b> Weakness</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間部の為、大規模災害時の孤立の可能性がある。(通信手段、物資等(オムツ、薬、燃料))</li> <li>移動手段の為にガソリン調達が難しい。</li> <li>大規模災害発生時のマンパワー不足(専門職種、看護師、リハビリ等)</li> <li>他医療機関との助け合いが難しい。(近隣にない)</li> <li>現場の職員は交代制なので、訓練時全員揃わない。</li> <li>夜間災害発生時のマンパワー不足(夜勤者のみ)</li> <li>多職種との連携した合同研修会や訓練が少ない。</li> </ul>

# 南海トラフ巨大地震による被害想定

施設名: 医療法人新心会介護老人保健施設悠心館(併設型) 徳島県阿南市新野町  
 施設立地: 標高29.6m 構造: 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造5階  
 延べ面積: 2,166.7 m<sup>2</sup>

新野町 周辺 震度6強

【揺れ・津波】

項目	最大クラスの地震	発生頻度の高い地震・津波
最大震度	7	6強
津波浸水の有無	無し	無し
津波到達時間(30cm)	無し	無し
液状化の可能性	小	小

【洪水・土砂災害】

事象	内容
河川浸水、洪水	河川から離れており、周辺地域での危険性は低い。
土砂災害(地すべり、山腹崩壊、急傾斜地崩壊)	山からも少し離れて立地しており、危険性は低い。

# 南海トラフ巨大地震による被害想定

施設名: 医療法人新心会介護老人保健施設悠心館(併設型) 徳島県阿南市新野町  
 施設立地: 標高29.6m 構造: 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造5階  
 延べ面積: 2,166.7 m<sup>2</sup>

【ライフライン被害】

電力	被災直後に停電し、復旧に1週間程度
LPガス	揺れにより自動停止する。復旧に1週間程度
上水道	被災直後に断水し、復旧に1ヶ月程度
情報通信	固定電話: 被災直後に不通となり、復旧に1~2週間程度 携帯電話: 被災直後から繋がりにくくなる。3から5日で一部復旧 インターネット: 被災直後に不通となり、復旧に1週間程度
周辺道路等	・国道、主要県道など幹線道路は全線通行止め。その後、緊急通行車両のみ通行可能となる見込み。 ・施設周辺の道路は山間部が多く、通行不能となる可能性があり、復旧まで1か月以上 ・停電のため、信号機などに支障が出る。

【建物・設備被害】

建物	建築年次・耐震性: 平成6年築のため耐震性を有している。 被害: 窓ガラスが割れ飛散、壁や天井の一部が落下する可能性がある。
設備関連	・施設内の医療機器や書庫が転倒する。 ・施設外御ボイラー室が倒壊し、水漏れ、破損する可能性がある。 ・プロパンガスは緊急停止する。 ・停電によりエレベーターなど電気が必要な設備は使用不能となる。 ・地盤沈下等の影響で埋設排水管、外壁管が破損漏れの可能性がある。
情報関連	業務系サーバーの一部が転倒により破損する。

## 南海トラフ巨大地震により想定される業務継続上のリスク

リスク区分	内 容
人 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死者が発生する可能性がある。(患者、入居者、職員、職員の家族)</li> <li>・安全不明者が発生する可能性がある。(外勤者、勤務時間外の職員等)</li> <li>・道路の寸断、通行不能により、出勤や帰宅が困難となる。</li> <li>・また、車の使用が困難となり、徒歩での移動となる。</li> <li>・空調機能の停止により、患者、入居者の生命機能が低下する可能性がある。(冬季・夜間・夏季など)</li> <li>・夜間・休日等人員マンパワーの不足により、業務の継続が困難となる。</li> </ul>
物 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倒壊、破損箇所の補修・復旧作業が必要となる。</li> <li>・ライフロインの停止により、業務継続にあたり代替対応が必要な業務が発生する。(入浴サービス・食事など)</li> <li>・必要物の不足(燃料、オムツ、医薬品等)の恐れ。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信機能の不通により、医療機関、公的機関、取引先との連絡が困難となる。そのため、重症者の治療、生命維持ができず、また、医薬品・食糧・物資が不足する。</li> <li>・水が出なくなり、トイレの使用不能、より衛生状況が悪化する。</li> <li>・ゴミ、廃棄物の収集が行われなくなる。(一般、医療系とも)</li> <li>・周囲に隣接する住宅やビルはなく、他の建物倒壊による被害や火災延焼の危険性は少ない状況。</li> </ul>

## 災害時プラス業務

通常業務	
医療行為	
食事介助	
入浴介助	
排泄介助	
リハビリ	
口腔ケア	
レクリエーション 等	



災害時特有の業務
要配慮者の受け入れ(福祉避難所)
ポランテアの受け入れ
倒壊物、ガレキの除去
建物、設備の補修
帰宅困難者への対応
職員の心のケア、健康管理
事業用ゴミ、医療廃棄物処理 等

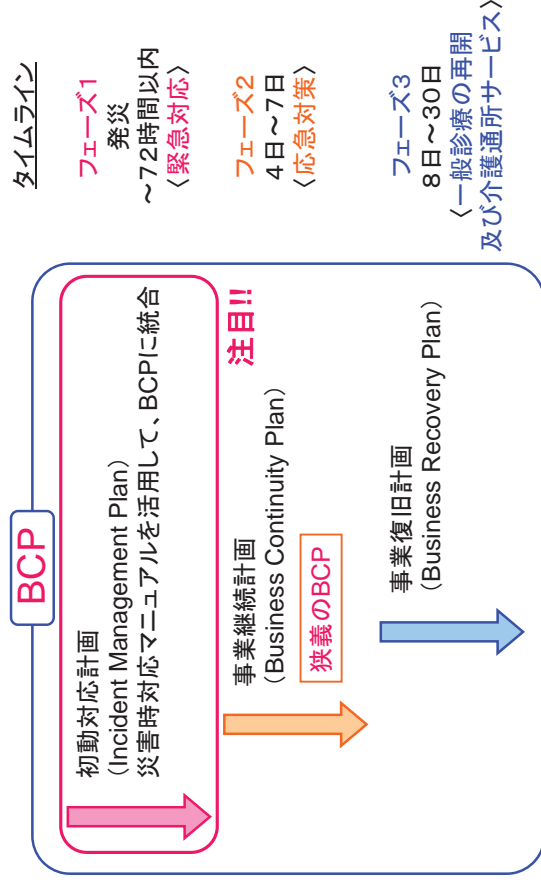
## 医療法人 新心会 対応状況 (現状評価)

リスク区分	内 容	可	不可
人 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両法人共に地元の職員を多く雇用しており、緊急参集職員も町内なので集めやすい。消防訓練を年2回実施。</li> <li>・地元消防団に3名を配置して連携をしている。</li> <li>・防災士、防火管理者も職員4名呼び、各施設に配置している。年数回危機管理の研修会も参加。</li> </ul>		概ね対応可能
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設のオムツは2週間分を準備している。</li> <li>・燃料は地元ガソリンスタンドと契約し、平時より提供を受けている。</li> </ul>		概ね対応可能

**人的確保＝概ね可能**

部署を越えての初動対応から事業継続へのプロセスが不足している。  
**多職種共同での訓練が必要。**

## 医療法人 新心会のBCP





## 医療法人新心会 BCP策定・運用の目的

### 【患者さん・利用者さん】

医療法人新心会は、有床診療所(19床)、介護老人保健施設(60床)、通所リハビリテーション(26名定員)、訪問看護(24時間対応)を運営し、医療・福祉サービスを提供している。南海トラフ巨大地震などの災害発生によるサービス停止は、患者さん・利用者さんの生命の危険や機能低下をもたらす恐れがあるため、災害時であっても命にかかわる最低限のサービスについては継続していく必要がある。

### 【職員へ】

災害発生時にも事業を継続することにより当法人の経営を健全に保つことは、職員の雇用を守る上で重要である。また、災害時の職員の安全の確保に関しても、今回のBCPの中で併せて検討することにより、職員の安全・安心や法人への帰属意識向上に繋がると考える。

### 【地域へ】

酒を挟んだ併設の社会福祉法人心和会は、阿南市の福祉避難所として指定を受けており、災害発生時には、地域の要援護者を受け入れられる拠点となっている。また、地域の様々な行事活動に参加するなど、日頃から地域と協力し活動を行っている。今回のBCPの中で、災害時の対応方法や地域との連携について検討することにより、地域の災害対応力向上に寄与することができ、地域における当法人グループの存在感の向上にも繋がると考える。

## 医療法人新心会のBCP基本理念

- ① **職員の安全を守ること。**
  - ・マンパワー(専門職:医師、看護師、理学療法士、介護福祉士)の安全確保が危機管理の最優先課題
- ② **利用者の安全を守ること。**
  - ・利用者、患者さんの安全を守ること(入院、入所、通所者を示す)
- ③ **医療及び介護サービスの継続を図ること。**
  - ・有床診療所に求められる医療機能の継続をケアサービス(食事、排泄等)を継続できるように計画する。
- ④ **復旧(医療・介護)の早期再開**
  - ・作成した継続計画に従って、重要な医療業務を速やかに復旧、継続し、介護分野も再開させる。

## 取り組みのポイント

- **医)新心会が取り組み上でポイントとなること**
    - ↳ 医療・福祉と多職種が働いているので、共通の意識を持つ、シェアする。
  - **重要業務を選定する際の考え方**
    - ↳ 医療・福祉共にBCP基本理念を全職員に浸透させる。
  - **体制・取り組み方法の考え方**
    - ↳ 医療・福祉共同の多職種によるBCP委員会を設置する(PDCAサイクル)
  - **教育・訓練の内容と考え方**
    - ↳ **訓練から課題を出していく。**
- 通常の訓練

↓

→
- +α備蓄食 … 時間軸での対応**力**
- 今回『初動対応訓練』を実施する!!**

## 医療法人新心会 各事業ごとの事業継続の必要性

事業種別	実施施設	事業の継続の必要性 (患者さんや地域への影響の大きさ)	事業継続の 考え方
有床診療所	有床診療所 馬原医院(19床)	大	継続
介護老人保健施設 短期入所療養型	介護老人保健施設 悠心館(60床)	大	継続 新規の入所は 休止
通所リハビリ	デイケアセンター 悠心館(26名定員)	小	休止
訪問看護	訪問看護ひまわり (24時間対応型)	中	休止

※地域の震災時要援護者は原則受け入れる。

# 医療法人新心会 初動対応訓練シナリオ

日時：20 x x 年〇月〇日(金曜日)午後14時～

気候：天気 晴れ、気温20度、風速0m

職員：平日シフト通常勤務中 各種事業：通常サービス提供中  
※午後14時 高知県沖を震源とする強い地震が発生

緊急地震速報が鳴り響いた直後、これまでに経験したことがないような強い揺れを感じ、立っているのも困難な状況だった。

2分後に揺れは収まった。施設内は建物自体に損傷はないが、揺れにより様々な設備が転倒し散乱する。

電気は揺れの直後から停電し、照明は非常等のみ点灯中である。ガラスは一部が割れており、飛散している。

法人の両施設内にいる入院患者や入所者、利用者は混乱し、右往左往している方、慌てて玄関に飛び出している外来患者の方がいる。

地震の規模：マグニチュード8.6 震源の深さ：約10km

震度：徳島県南部 最大7 地震による津波の恐れ：あり

## 医療法人新心会 初動対応訓練

日時：平成27年12月18日(金曜日)午後14時 初動対応訓練実施

参加者：多職種15名、入所者・入院患者・利用者20名(通所リハ中心)

場所：有床診療所馬原医院、介護老人保健施設悠心館内

※医療法人新心会 多職種共同(医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・支援相談員等)を含み行う。

- ①シエイクアウト訓練
  - ②安否確認訓練
  - ③避難誘導訓練
  - ④まとめ ディスカッション
- ①②③は「シエイクアウト訓練」として実施  
④は「ディスカッション」として実施
- ①各サービス提供場所で行う(居室・リハビリ室等)  
②多職種共同で行う(応援スタッフも想定)  
③冬場でもあり、玄関内までの誘導を行う  
④午後17時より参加者交代で実施する。職種により、勤務時間が合わないケースもあり。

※老健2フロアは、重度患者もおり、今回の訓練は考慮する。

## ①初動対応訓練(シエイクアウト)

介護士

理学療法士



頭に座布団



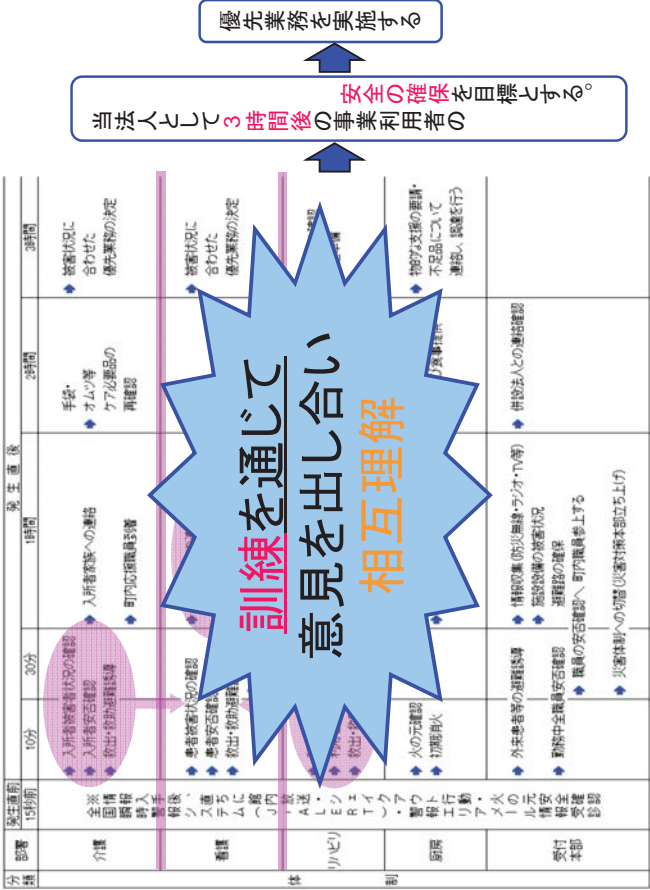
職員も自らも食堂机下へ

○座布団で頭を守る！

○低く！頭を守る！

※連携した多職種の参加

(利用者さんも守り！自分たちも守る行動！)



## ②初動対応訓練(安否確認)

応援 看護師

現場 看護師

現場 看護師 応援 看護師



○安否リスト表で確認

○居室指示する看護師

※連携した多職種の参加

(他部署からの応援連携を想定したケース)

## ④初動対応訓練(ディスカッション)

理学療法士 支援相談員 介護士



全52意見あり



付箋色分け

黄色…介護職

ピンク…看護職

青色…リハビリ職

緑色…厨房

※連携した多職種の参加

(勤務に合わせて交代して参加をしてもらおう!)

## ③初動対応訓練(避難誘導)

現場で使用できる物を使う!!



介護士 看護師 理学療法士



○シーツを使って避難誘導

○玄関前の避難場所へ

※連携した多職種の参加

(利用者の状態に合わせた移動手段(車椅子・歩行器・シート等))

## ディスカッション 気づき点

良かった点 ……⑭

○すばやく机の下に入るといいう行動が取れて良かった(介護福祉士)

○応援もあり、誰がどの方を確認するのかわからずばやく決めて、実行にうつせた(介護福祉士)

○避難誘導時の順序などの確認が協力してできた(理学療法士)

悪かった点 ……⑬

○身体的に机の下に誘導するのは難しい(看護師)

○難聴高齢者の方などの点呼反応がスピード感を持ってできなかった(作業療法士)

○避難誘導時に声掛け(状態や避難場所まであと〇〇)がうまく言えない(看護師)

## ディスカッション 改善点

### 課題

・・・⑧

- 食堂・ホール・リハ室以外、あまり頭を隠す場所がない(看護師)
- 安否リスト表に名前・状態記号を書くのをもっと工夫すべき(介護福祉士)
- 実際は1人でもっと多くの人をうまく運ばないか？(介護福祉士)

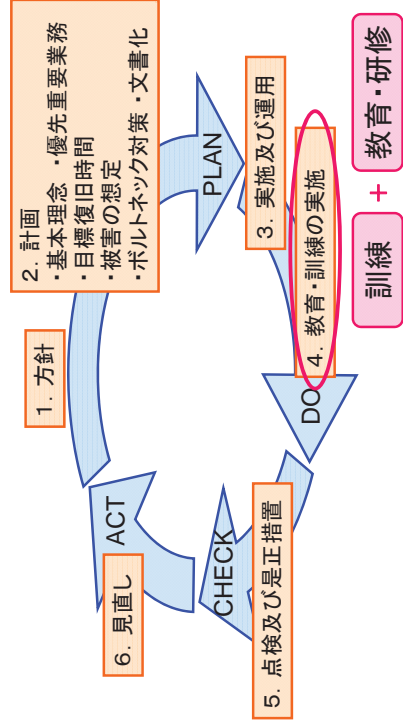
### 今後

・・・⑩

- 入所者等はヘルメット防災ずきんの確保が必要(看護師)
- 安否リスト表は部屋ごとにごまめに更新しては(看護師)
- 防災リーダーを勤務に合わせ朝礼で指示する(介護福祉士)
- フロアの利用者の避難誘導・手助けを行う(管理栄養士)

## 今後の取り組みについて

勤務する職種別ではなく、多職種共同でマンパワーを活かした連携と教育・周知を基に訓練を実施する事で、より実効性の高い検証を行い、改善点を抽出して継続的に見直していく必要性がある。



## 医療法人 新心会 多職種共同の訓練

○消防法施行令消防訓練 年2回(内1回 夜間想定) + ① 今回のような訓練

### 消火訓練



### 炊き出し訓練

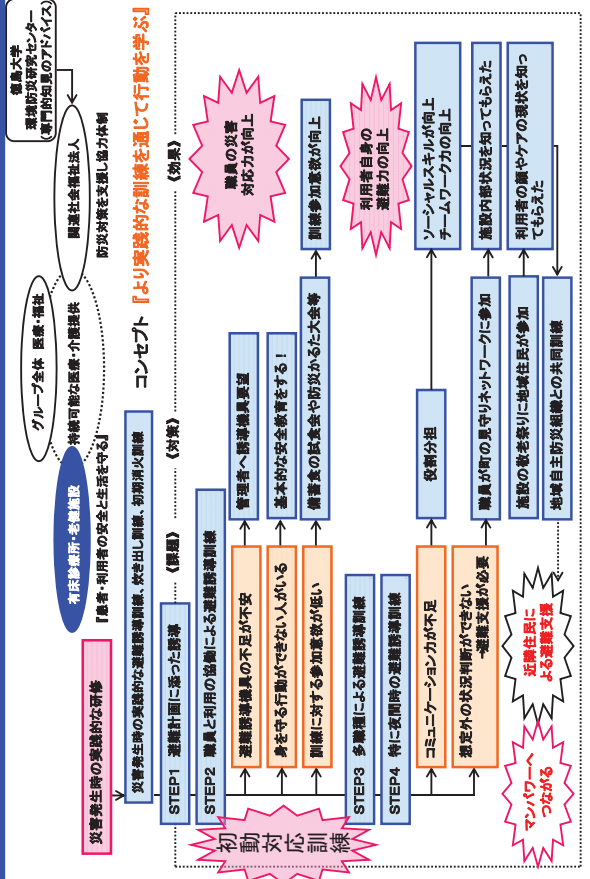


### 避難誘導訓練



※大切なのは部署を越えた多職種共同で参加する事!!  
(医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・管理栄養士・管理栄養士・調理員等)

## 訓練参加意欲・チームワーク・地域交流へ



## まとめ ①

○多職種連携による実践的な訓練を通じて学ぶ(自助力)

今回の初動対応訓練のように、災害時には的確に判断して速やかに行動できることが重要です。医療・福祉とサービステキが違っても組織体制や防災管理体制及びマニュアルが整備されているだけでなく、各職員の現場能力に負うところも大きく、防災意識の高揚と的確に判断・行動でき、さらに連携できる人材育成が必要です。

○実効性のある協力体制の構築へ(共助力)

今後は自法人のみ守れば良いというのではなく、地域との互助的関係は重度者や要介護者を抱える医療・介護施設にとって非常に力強いものであり、マンパワー協力にもつながります。地域との共同防災訓練や各ネットワークづくりにも連携体制を深め、より実効性のある対策につなげたい。

多職種連携

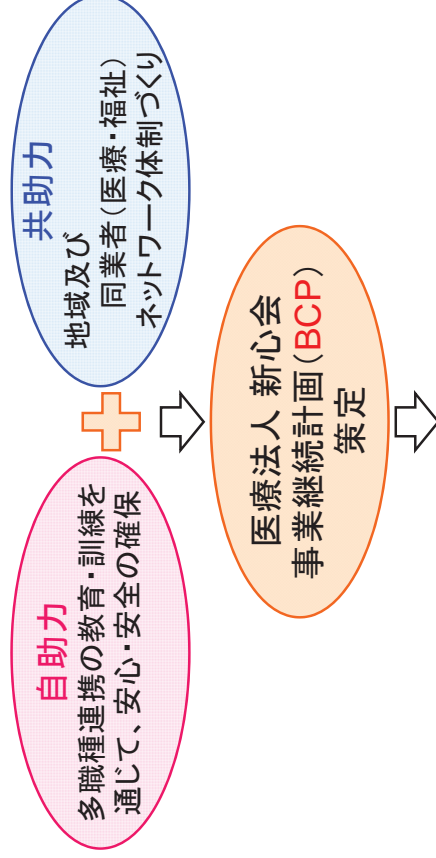


地域連携

地域全体シミュレーション  
実効性のある訓練の実施



## まとめ ②



最終目標：地域から選ばれる・頼られる施設へ  
医療・福祉業界のスタンダードモデル(徳島版)を創り、  
発信していきたい。



## 防災研修を用いた 福祉のまちづくり への貢献

四国防災・危機管理プログラム  
医療コース 白山 京子

## 2、“社会福祉協議会”と“地域いきいきネットワーク事業”

- 社会福祉協議会 “仕組み作りのお手伝い”役
  - 社会福祉法に基づき、地域福祉を推進する事を目的に組織された、民間組織としての自主性を持つと同時に公共性も持ち合わせる福祉法人である。
  - 『福祉のまちづくり』を目的とし、住民参加による小地域のネットワーク作りの支援や社会福祉に関わる公私の関係者・団体・機関との連携を進めたり、具体的な福祉サービスの企画や実施を行う。
- 主な事業：
  - 地域福祉活動（見守り隊事業、地域いきいきネットワーク事業、子育てサポート事業など）、相談支援（心配ごと相談、自立相談など）、在宅福祉サービス、介護保険サービス、障害者福祉サービス など
- 地域いきいきネットワーク事業（住民による住民のための住民主体の組織）
  - 自治会単位の福祉コミュニティによるまちづくりを進めるための組織。
  - 地域福祉の問題に対して、自主的な活動と小地域内の連携・協力体制を持った組織的な福祉活動を行っている。
  - 構成員は、地域福祉推進員（自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、学識経験者）、老人クラブ、婦人会、ボランティア団体等

## 3、大川地区の概要

(H27.10.31現在)

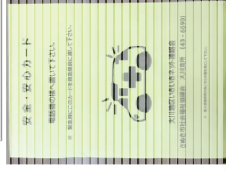


## 1、受講の動機

- 介護施設に勤務していた頃から、高齢者福祉は地域や自治体の協力がないと個々の援助が進まないことを実感していた。その後、約20年間にわたり社会福祉協議会の仕事に携わり、花作りなどを通じて地域福祉活動を行ってきた。
- そのような中で、地元では平成16年の台風による土砂崩れ・河川の氾濫を経験したり、平成23年の東日本大震災を経験した。当社協もその際にボランティアに参加し、南海トラフ巨大地震に備えることの必要性を感じた。
- また地域福祉活動に、“防災”を取り入れ、地域連携のカギとして有効に活用したいと考えていた。そして、平成25年に防災士資格を取得し、その後引き続き、平成26年から四国防災・危機管理プログラムを受講した。

## 従来の“防災”をキーワードとした訓練・事業

- 家具転倒防止用具設置支援事業  
高齢者、独居者の減災
- 安心安全カードの配布  
緊急避難時の住民基本情報  
消防との連携
- 地域見守り隊  
小地域における  
要配慮者の把握



## 4、四国防災・危機管理プログラム

実習  
講義

### 専門実務演習(講演・各職場に成果を還元)

**行政・企業防災・  
危機管理養成**  
事業継続計画の  
策定と実践

**救急救命・災害医療・  
公衆衛生対応養成**  
災害医療マネジメント  
健康危機管理

**学校防災・  
危機管理養成**  
教育事業計画の  
策定と実践

### 共同実習科目(3校合同)

夏季集中実習(3日間合宿)・PFA講習(1日間)

### 共同実施基礎科目

リスクコミュニケーション・災害と健康管理  
メンタルヘルスケア・防災・危機管理など

### 組織横断的な学習内容

地域の防災教育リーダーとして指導可能な学習素材

## 本プログラムで学んだ研修素材

- 1) 共通科目での主な学習内容
  - DIG (Disaster Imagination Game 災害図上訓練)
  - クロスロード カードゲーム
  - 避難シミュレーションゲーム
  - 避難所運営ゲーム(HUG)
  - PFA(サイコロジカル・ファーストエイド) など
- 2) 専門科目での主な学習内容
  - DMATについて
  - CSCATT(災害医療の運営と初動対応)
  - 公衆衛生的見地からの地域医療  
(母子保健、感染症、お薬手帳 など) など

## 実際に四国防災・危機管理プログラムで 得た知識を用いた地域内での主な研修

- 地域福祉推進員研修会  
クロスロードカードゲーム 災害心理学の学習  
DIG 地域のハザードマップの作製  
HUG 地域の避難所運営の机上訓練
- 大川地区地域防災訓練
- ワンデイキャンプ(小学校)  
教育委員会との連携を通じた地域コミュニティ活動
- 老人大学でお薬手帳の周知、親子クラブで災害対応  
診療情報の必要性の周知や避難所生活の備え

## 地域福祉推進員研修会

(自治会長、福祉委員、民生児童委員、福祉有識者)

2014.6

災害への理解を深める：災害心理学について  
**クロスロードカードゲーム**を用いた研修：災害時に逃げ遅れないために



自らが避難の率先者たれ

## 地域福祉推進員研修会

(自治会長、福祉委員、民生児童委員、福祉有識者)

2015.9

災害への理解を深める：地震のメカニズム  
**DIG**を用いた**災害図上訓練**：ため池決壊・避難経路の確認



自治会ごとでの班編成し、同じ地区で災害情報と地域のハザード情報を共有

災害に関する地域の特性

## 地域福祉推進員研修会

(自治会長、福祉委員、民生児童委員、福祉有識者)

2016.2.

DMATの紹介：地域災害拠点病院 DMAT隊員による講演

DMATの意義

災害時のトリアージ

区分	分類	要項色	状況
第1順位	緊急災害時 (重傷者)	赤色 (A)	迅速な処置により生命が危ない 状態、多量の出血、シラゲが脱落 ・多少治療が通っても生命に危険が無い
第2順位	内傷治療群 (中等症者)	黄色 (B)	・多少治療が通っても生命に危険が無い ・手術が必要
第3順位	軽傷者群 (軽傷者)	緑色 (C)	・上記以外の軽傷な傷病 ・専門的な治療を必要としない
第4順位	軽症者群	黒色 (D)	・処置を行っても持病が不可避 ・既に死んでいる



・避難所運営ゲーム (HUG)：自治会、学校PTA



災害発生時の初動対応・地域対応

## 大川地区地域防災訓練

2015.3

子供から大人までみんなで参加し体験する。夏期実習で行った、**災害用食料の調理体験**などを参考にした。地域で防災について備えることを実体験できた。



- 1、DVDで 地震や災害について学習。
- 2、炊き出し体験・試食をする。
- 3、**災害用食料**を利用して、その調理方法と種類について学ぶ。

子供から大人まで、世代を超えた住民が一つの目標に向かって活動



## 小学校における“ワンデイキャンプ”

2015.11

ジャッキを使って人形を救い出せ  
(いきいきネットメンバー)



正しい傷テープの張り方を知らう  
(日赤ボランティア)



おいしい炊き出し訓練 (婦人会)



減災！突っ張り棒の威力



教育委員会とも連携

老人クラブで お薬手帳の重要性の啓蒙

2015.12

親子クラブで 災害母子保健関連情報の周知



地域には高齢者が多く、慢性疾患に罹患している確率が高いため、災害時にはお薬手帳を必携するように周知・啓蒙した。



親子クラブに参加して、災害時の乳児・幼児に対する注意点(避難する際の持ち物や、避難所での対応)を周知・啓蒙した。

## その他の“防災”をキーワードとした訓練・事業

- 地域自主防災会の訓練  
避難支援や災害資機材の整備・確認
- 一人暮らしの集い事業 (要配慮者の把握)
- 災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練  
依頼と受援



実施日時	実施場所	実施内容	参加者数	備考
11月14日(土)	日赤ボランティアセンター	災害資機材の整備・確認	15名	
11月21日(土)	日赤ボランティアセンター	一人暮らしの集い事業	10名	
12月12日(土)	日赤ボランティアセンター	災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練	20名	



地域住民を取り巻く生活環境



“防災”をキーワードとした 地域コミュニティの連携

## 5、本プログラムを受講して

- “**防災**”をキーワードとしたことにより、研修参加者の幅が広がり、地域住民全員が参加できるようになった。住民全体の参加により、“**地域連携**”が進んだ。
- 四国防災・危機管理プログラムの学習内容は、地域住民の興味を引く素材であり、**地域コミュニティの防災教育レベルの向上**に繋がった。
- 防災・災害教育により、地域連携が進み、本来の目的であった**地域の活性化・コミュニティの再生・まちづくりに**繋がった。今後も福祉のまちづくりに貢献していきたい。



ご清聴ありがとうございました

# まいカルタで チヨコット防災



錦野 順子

## 1. 防災教育の方法

- ① 教師や地域の人（自治会・自主防災会・防災士等）から話を聞く。
- ② 避難訓練等で体験をする。
- ③ 紙芝居や絵本の読み聞かせをしてもらったり、自分で読んで読んだりする。
- ④ カルタ取りやカルタ作りをする。等

## 0. はじめに

- 防災について学んでできて心に残ったのは、毎日の生活をきちんと生きることの大切さ、学級経営の大切さである。
- 基本的な生活習慣（早寝早起き・手洗い・うがい・歯磨き・咳の出るときはマスク等）を身につけること、人の話を静かに聞くこと、廊下を静かに通ること、スポーツや遊び等で体を鍛えること、等が防災に繋がっていることに気づいた。

## 長所と短所

- ① 教師は、地域の人よりも、児童に話を伝えることには長けているが、防災の知識は少ない。
- ② 起震車の体験や避難訓練等は、貴重な体験であるが、遊園地の乗り物感覚の児童がいたり、避難訓練に参加することが怖がる児童もいる。
- ③ 紙芝居や絵本の読み聞かせ等も多くの児童が喜ぶ方法ではあるが、見ただけで終わりがちである。
- ④ カルタ取りは身近で、児童が楽しんで参加できるが、カルタを取ることに夢中になり、内容が疎かになりがちである。

## 2. 目的

- 小学生を対象とした防災カルタを作る。同和カルタのように全学年で使用でき、学童保育や児童館等では、幼稚園児や中学生も一緒にできるものにする。
- 一般的な防災の知識を得るだけでなく、日々の生活の中で実践できる、具体的な内容を表現する。

## 4. 配慮事項

- ① 1枚  
1枚
- ② 絵札  
て分
- ③ 伝え  
え
- ④ 生活  
活
- ⑤ 内容  
内容を使



るようになる。  
と、印象に残りにくい。  
、工夫し  
強調する。  
に表現する。  
に頭の文字

## 3. 手順

- ① 小学生が日常生活の中で実践できる、防災教育に必要な事柄を50考える。
- ② 事柄に合った下絵を描き、ポイントとなる部分に彩色し、絵札を作る。
- ③ 最後まで読み札を聴いてから探し始められるような札を考える。
- ④ 50音シールを貼って仕上げる。

## 5. 作成したカルタ



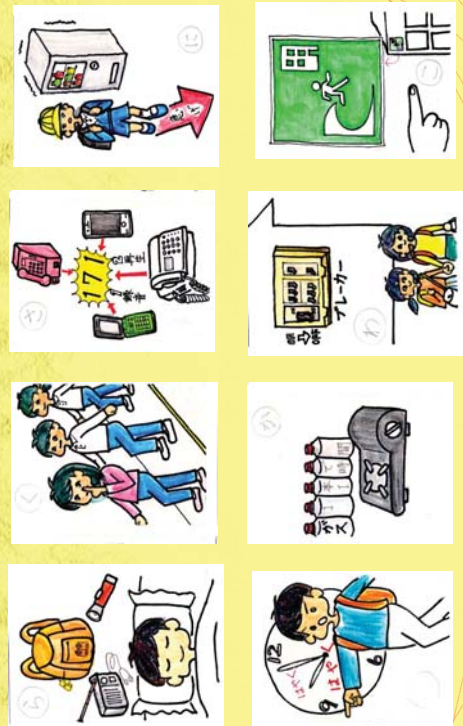
## 6. 実践

- 2016年1月23日（土） 13:00～15:00  
徳島市障がい者交流プラザ 3階  
ボランティア室（難病ボランティア“あい”）  
「稲むらの火」液状化 防災カルタ
- 2016年1月25日（月） 16:00～16:50  
小松島市北小松島学童（1年生～4年生）  
「稲むらの火」液状化 防災カルタ

- 2016年1月27日（水） 15:00～15:30  
小松島市小松島学童（1年生～4年生）  
「稲むらの火」 防災カルタ

小学生だけでなく、大人の方にもカルタ取りを実施して被験者から意見を聞くこと、「字がなくても分かる」との意見が多かったです。そこで、文字を絵札の裏側に移動させました。

絵だけのカルタなら、特別支援学級で絵カードとして使用できるのではないかと考えました。



## 7. 今後

- 50音にこだわらず、子どもたちに必要と考えられる事柄を、子どもたちに分かりやすい言葉で伝えていきたい。



ご清聴ありがとうございました！

